

# 平成30年度学校関係者評価

専門学校中央医療健康大学校 歯科衛生学科

## 平成30年度第2回学校関係者評価委員

### ■保護者

山田和昭

### ■企業関係者

今村陽一郎

### ■他校関係者

根木規予子

## 1. 教育理念・目標

【自己評価結果】		平均
1	教育理念並びに教育目標が明確に示されているか。	A
2	教育目標は卒業時の到達が読み取れるものになっているか。	B
3	教育理念並びに教育目標が教職員・学生に浸透しているか。	B
4	組織での目標設定が適切にされ、実行できたか。	B
5	鈴木学園クレドは教職員に浸透し、実践されているか。	A
【現状の問題点】		
学生に小冊子を作成して配布してあるので、上手に活用して教育理念・目標をより浸透させる必要がある。		
【改善のための方策】		
現在1年生は、毎朝ショートホームルームで交代で言わせている。 他の学年も、定期的に確認する時間を作り浸透させていく。		
【関係者評価】		
・特になし。		

## 2. 学校運営

【自己評価結果】		平均
5	目標を達成するための事業計画が策定されているか	A
6	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	A
7	情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	B
8	就業規則などの諸規定は適切に整備されているか。	A
9	組織内の連携は適切に図られているか。	A
10	上司の指示は適切にされているか	A
11	上司は提案を受け入れてくれているか	A
12	職場内での教職員教育・指導は十分なされているか。	A
13	BSCは適切に活用されているか。	B
【現状の問題点】		

全体的に大きく改善されてきているので、今後も高い評価となるようにより一層の改善に努めたい。

【改善のための方策】

組織としての各種規定が整ってきた。BSCなどの計画についてより確実な目標建てをしていく

【関係者評価】

・問題はない。

### 3. 教育活動

【自己評価結果】		平均
13	授業評価の実施・評価体制はあるか	A
14	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	A
15	資格試験の合格率は他校と比較して妥当か。	A
16	資格試験の不合格者の対策は適切に行われているか。	B
17	関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	A
18	目標に到達しない学生には対し適切なフォローがなされているか。	A
19	職員の能力開発のために研修等を実施若しくは派遣しているか	A
20	シラバスは十分に検討し作成されていたか。	B
21	シラバスの内容見直しについて教員間で検討されていたか。	B
22	教務の問題について、組織内で適切に話し合われているか	A
23	十分に余裕を持って教育行事の準備が来ているか。	B
24	学生による学校評価を反省し、事後の教務を改善しているか。	A
【現状の問題点】		
シラバスの見直しについては改善が求められる。教員間での検討が十分でないようなので改善案を話し合いたい。		
【改善のための方策】		
シラバスは、丁寧に計画されていると思われるが、講師に任せてある部分もあり、2018年の新しいコアカリキュラム、国家試験出題基準等を参照し、カリキュラムの再編成を行っていく(案の作成31年度)。シラバス内容もそれに基づき講師と話し合いを設ける。専任の教科は、時間数も多く実習もあるので、1回ごとのコマシラバスも作成しているが、時間に追われて担当教員に任されているので、専任教員全員で検討する時間を持つ。		
【関係者評価】		
・教員の顔に余裕ができきたと思う。(今村) ・1期生、2期生が卒業したことで、未経験なところがなくなった。良い流れである。(山田)		

### 4. 学修成果

【自己評価結果】		平均
25	就職率の向上が図られているか	A
26	退学率の低減が図られているか	B

【現状の問題点】
退学については学力不足の問題、精神的問題など項目別にして検討していく必要がある。
【改善のための方策】
3年生（2期生）は1名の退学者もなかった。2年生は3名が退学となったが、2年次は落ち着いている。1年生の退学者は3名が退学、1名が休学と多くなっている。学力というより、入学時の不明確な目的意識と、友人になじめないなどの理由が多い。A0入学者に退学者が多い（全員）。オープンキャンパス、入試面接、新入生オリ、個別面接ではその確認をしていく。SNSなどによる友人関係の問題については入学後の指導を強化する。 就職については、校内就職説明会を実施する。
【関係者評価】
・学校に問題はないと考える。適性の問題はやむを得ない。（今村） ・人間関係の問題は学校が介入するのが難しいところもある。（今村）

## 5. 学生生活支援

【自己評価結果】	平均
27 学生相談、カウンセリングに関する体制が整備・機能しているか。	B
28 各学校行事について、適切な事後反省を行い次回に活かしているか。	B
29 防犯・防災訓練の実施・防災計画の作成等、不法侵入・災害に対する整備は万全か。	A
30 進路活動に関する支援が整備され、機能しているか。	A
31 中途退学の理由、実状を適切に把握し、教職員で共有しているか。	A
【現状の問題点】	
カウンセラーの学生への紹介などで垣根を低くするなど利用率を高める工夫を検討する必要がある。	
【改善のための方策】	
カウンセリングでは、設置はあるが利用者は少ない。利用する前に辞める結論を出してしまう学生もいる、また精神的な問題を抱えて入学してくる学生も多い。早めに対応できる環境づくり、教員を含めて学生対応の相談者となってもらえると良い。「カウンセリング」に対しての抵抗感はあると思われるので、もっと開かれたカウンセリングの場を考えていく。	
【関係者評価】	
・問題はない。2019年度、防災の研修会を、学校を会場に実施したいと考えている。（今村）	

## 6. 教育環境

【自己評価結果】	平均
32 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	A
【現状の問題点】	
予算作成で計画的に整備を進めていきたい。	
【改善のための方策】	

本年度はレントゲンのデジタル装置の設置ができた。年度計画で、学生により良い環境整備を提案していく。

【関係者評価】

・問題はない。

7. 学生の受け入れ募集

【自己評価結果】

平均

33	学生募集のための広報資料の表現・内容並びに広報活動の方法、時期は適切か。	A
34	入学案内（パンフレット）には志願者が必要とする情報が掲載されているか。	A
35	体験入学の時期、回数、内容は適切か。	A
36	入学者選抜の時期、方針、方法は適切か。	A

【現状の問題点】

評価としては問題がないが、応募者の減少も見られたのでより一層の改善に努めたい。

【改善のための方策】

歯科医師会とも共同で、歯科衛生士の職業告知や、パンフレットを歯科医院に置くなど対策は考えているが、まだ少ない現状がある。歯科衛生学科があることが十分に知られてないところもあるので、在校生からの高校へのアプローチなど考えていく。  
オープンキャンパスにおける学校紹介、パワーポイントの修正、学生スタッフの教育等行っていく

【関係者評価】

・高校の先生が、歯科衛生士の必要性について理解できていないという意見もある。（増田）  
・職業紹介のパンフレットを学校オリジナルでつくっても良いのではないか。（今村）

8. 財務

【自己評価結果】

平均

37	・中長期的に所属学科の学費納入基盤は安定しているといえるか	A
38	・学科で策定した予算・収支計画・執行は有効かつ妥当なものになっているか	A

【現状の問題点】

特に問題はない。

【改善のための方策】

学生の確保を今後も継続して努力する。

【関係者評価】

・問題はない。

9. 法令等の遵守

【自己評価結果】		平均
39	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	A
40	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	A
41	個人情報保護法を遵守しているか。	A
42	各種ハラスメントに対する防止・対応策が整備されているか。	A

【現状の問題点】  
特に問題はない。今後も注意していきたい。

【改善のための方策】  
常に意識して遵守していく

【関係者評価】  
・問題はない。